



本校生徒が、国際大会につながるコンテストに挑戦しました。

普通科
探究科

第23回日本情報オリンピック



二次予選で敢闘賞を受賞した生徒

二次予選で敢闘賞を受賞した生徒
念ながら本選への出場には届きませんでした。来年のオリンピックに再び挑戦してください。

探究科の1年次生1人が、12月10日(日)にオンラインで開催された第23回日本情報オリンピック(JOI2023/2024)の二次予選に参加しました。1,366人が参加した二次予選では、問題が5問出題されました。出題された問題には、カードゲームで条件を満たしたカードを選択するためのプログラムや、日々価格が変化する商品を一定期間販売し、その期間の売り上げの総和を求めるプログラム、赤、緑、青のライトを組み合わせて条件に合うように白色をつくるためのプログラムの作成をもとめたものなどがありました。それぞれソースコードをつくりアップロードし、審査を受けた結果、敢闘賞をいただくことができました。残念ながら本選への出場には届きませんでした。来年のオリンピックに再び挑戦してください。

第16回日本地学オリンピック

普通科3年次生1人と探究科2年次生2人が、12月17日(日)にオンラインで開催された第16回日本地学オリンピック一次予選に参加しました。日本地学オリンピックは、地学の知識や思考力を競うもので、SDGsの達成と自然災害や環境問題の理解に役立つとされています。このたびの一次予選で上位200位以内に入った生徒が二次予選に、そして、二次予選で上位60位以内に入った生徒が、2024年度国際地学オリンピック日本代表を争う本選に出場することができます。本校から参加した3人は、普通科文系コースや人文社会科学科に所属している生徒で、地学の授業を開講していない本校において、主体的に学習し、その成果を確かめるために出場しました。今年度は、残念ながら二次予選に進むことはできませんでしたが、来年度1年次生が積極的に参加し、成果を残してくれることを期待します。



第16回日本地学オリンピックの一次予選に参加した生徒

第18回エコノミクス甲子園

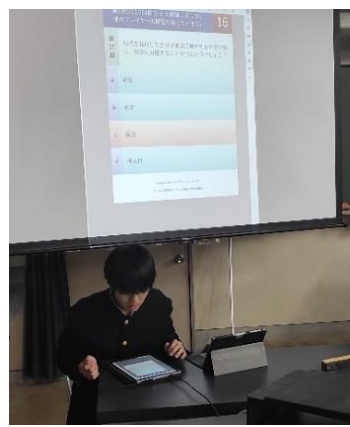


第18回エコノミクス甲子園山口大会に参加した生徒

第18回エコノミクス甲子園山口大会に参加した生徒
お金に関するトリビア、生活に根ざした家庭科に関わる問題など、幅広く「お金」に関する知識が問われていました。また、全国大会に出場し優勝すると、国際経済オリンピックに参加することができます。参加した2人の生徒は、事前に配布された学習課題をもとに準備を進めてきました。競技の結果、本校のチームは、山口大会で第3位に入賞することができました。全国大会には届きませんでした。今後のさらなる努力を期待します。

エコノミクス甲子園山口大会に参加しました。2人は共に将棋部に所属しています。認定特定非営利活動法人金融知力普及協会が主催する本大会は、各都道府県で予選が実施され、地方大会の一つである山口大会は山口銀行の主催により開催されました。50問の問題が出題された山口大会では、金融や経済の知識だけではなく、新聞やニュースを基にした時事問題や、

普通科の3年次生1人と探究科の2年次生1人がチームをつくって、12月17日(日)にオンラインで開催された第18回



オンラインで山口大会に参加!

探究科3年次生が、各種論文コンテストに応募しました。

探究科

探究科の3年次生が、昨年度の発展探究の授業で取り組んだ課題研究の成果を論文にまとめ、各種コンテストに応募しました。結果が発表されましたので、お知らせします。

塩野直道記念算数・数学の自由研究作品コンクール第11回(2023年度)

探究科3年次の数学班が、塩野直道記念算数・数学の自由研究作品コンクール第11回(2023年度)に応募しました。一般財団法人理数教育研究所(株式会社新興出版社啓林館が設立に関与する。)が主催する本コンクールは、日常生活や学校で学んでいるときに感じた疑問や課題を、算数・数学の力を活用して探究し、わかったことをレポートにまとめて出品するもので、全国の小・中・高等学校から15,699作品の応募がありました。「1/f(えふぶんのいち)ゆらぎの短期における記憶力への効果」をテーマとして研究した数学班は、ヒトの自律神経に影響するといわれている1/fゆらぎが記憶力におよぼす影響を調べるため、1/fゆらぎを生じる音楽を聞きながら、ランダムに並べられたアルファベットを記憶する実験を行いました。探究科の同級生を被験者として実施した実験の結果、1/fゆらぎと記憶力の間に関連があることがわかり、論文にまとめることができました。このたび出品した論文は、地区審査から中央審査委員会による最終審査に推薦される29作品に選ばれました。残念ながら最終審査で入賞(14位以内)には届きませんでしたでしたが、これからもより一層、研究を深めてください。



中央審査委員会による最終審査に進むことができた数学班の生徒

第22回神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞

第22回神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞に、表に示した探究科3年次の9つの研究班に応募しました。神奈川大学が主催する本コンテストは、理科・科学系の部活動や総合的な探究の時間などで、研究に夢中になっている若者を支援するために始まったものです。第22回を迎える本発表会には、全国の59校の高等学校から132作品の応募がありました。本校から出品した9作品は、残念ながら入賞(14位以内)には届きませんでしたでしたが、自分たちで取り組んできた活動をもう一度振り返り、課題解決力のさらなる向上を目指しましょう。



第22回神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞に出品した探究科の3年次生

第22回神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞に出品した研究班と研究テーマ等

研究班	研究テーマ
数 学	1/f ゆらぎの短期における記憶力への効果
物理1	ボウリングで100%スベアをとる方法
物理2	磁歪式振動発電を用いた雨滴発電
化学1	竹酢液によるアンモニアの消臭
化学2	カイロを変えろ!!~資源循環につながるカイロを作る~
生物1	コオロギの捕食者に対する反応
生物2	ワラジムシって土壌回復に役立つの?~ワラジムシと小松菜の成長の関係~
保健体育	片方の手の握力を鍛えると、もう片方の手の握力も上がる?
家 庭	いでよ神龍!仙豆で世界の飢餓をなくしたまえ!

「国境なき医師団」をテーマとした、オンラインフォーラムに2人の生徒が参加!

普通科

探究科

広島大学が主催するワールド・ワイド・ラーニング(以下、「WWL」という。)の12月15日(金)のオンラインフォーラムに、探究科の2年次生2人が参加しました。このたび行われたWWLのテーマは「国境なき医師団の現場から」で、講師は国境なき医師団(以下、「MSF」という。)でプロジェクト・コーディネーターを務めておられる末藤 千翔(すえふじ ちか)さんです。講義では、国連高等難民弁務官事務所に勤めておられた末藤さんが、MSFで活動を始めることになったきっかけや、この活動のやりがい等をお話くださいました。さらに、医師ではない末藤さんがMSFで様々な国の人々と協働して活動することの意義についても話されました。その後、参加した高校生がグループに分かれてディスカッションを行いました。ディスカッションのテーマは、「緊急援助を行うこと」と「将来の開発を意識して援助を行うこと」のどちらが大切かで、グループの意見をまとめて発表するなど、同世代の高校生の考え方やグローバル社会に対する意識について知るよい機会となりました。



参加した探究科の2年次生

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。